

エスキス



アクティビティを設計せよ!

学校空間を軸にしたスタディ

小嶋一浩 編著

■本の構成と目標点

この本は「エスキス」シリーズの1冊として企画された。シリーズの出発点は、私たちが設計教育の場で課題を出題しエスキスを行うときに繰り返し話していることがらを、トピックスごとに1冊の本にまとめたかどうかということだった。いろいろなアイデアが出されるなかで、普通の教科書には出てこない、建築家としておのおのが考えつつけているようなテーマを切口とする方向に進んでいった。だから、まさにいま設計課題を考えている学生たちが、読者として想定されている。そこから少し欲張って、建築の設計の進め方やプライオリティの与え方に向けてテーマを掘り下げた。結果として、純粋に教科書というわけではない本になった。

テーマは「アクティビティと空間」の応答である。アクティビティを起点にすることで、面積表として与えられた諸室を動線でつなぐというのではなく、なぜ「部屋」があり、なぜ「廊下」があるのか、それらは本当に必要なもの(＝前提)なのかということから考える。扱う対象は「学校」を軸にした。その理由はいくつもある。まず、学校というビルディングタイプとアクティビティの話がフィットしている。「学校」が設計課題で「住宅」「集合住宅」と並んで今も出題されつつけていることもある。学校が課題になるのは、住宅同様誰もが体験している空間だからだろう。私自身が「千葉市立打瀬小学校」「吉備高原小学校」と二つの小学校を設計する機会を得たことも「学校」を軸に据える理由のひとつだ。ただし、学校から話を始めたからといって、いわゆるビルディングタイプを肯定しているつもりはない。内容に目を通してもらえばわかるように、むしろこの本はビルディングタイプで建築を考えることへの批判となっている。企画が始まってから4年近くが経過する間に「吉備」の設計が始まり、今は開校3年目を迎えている。この本の内容は、その間の私自身の設計の試行錯誤ともオーバーラップする。

■本の構成

この本に章立てはない。それでも大きな流れはあって、あるページはその前後のページと何らかの意味でつながっている。たまたま開いた

ところから何ページか続けて見てもらえばそれなりに脈絡が見いだせる。大きな流れは、以下のようになっている。

「学校」の事例が骨格となる。同じ事例は続けて扱う。関係すると思われる事柄(たとえば「閉じない」とか「家具と空間」)がトピックスとして挿入されることもある。空間が建築化される以前の原景として、「ブリュージュルの絵」などが挿入されている。建築なしに高度に空間化された「アメリカンフットボールのフィールド」のような事例と併せて、この本で扱っているテーマの意味を深化させるのによいと思われたものだ。こうした事例を入れたのは、ある目的に従って出現する空間のすべてを建築で解決できると信じることへの戒めでもある。建築の設計をやっていると、つい建築を過信する。これは、信じすぎないほうがいい。建築にできることなどタカがられている。

数ページ以上続くような事例では1:200の図面(部分)を1枚挿入した。本の中の図面は、基本的にセِيمスケールである。ページが進むにしたがって、学校以外の事例の割合が増えてくる。これは、この本で扱っているテーマが学校以外のビルディングタイプにも通じる普遍的なテーマであることと対応している。事例の空間はどれも、そこにいろいろなことが発生する場所である。異なる機能がひとつながりになって、あるいはオーバーラップして配されているものとしての「せんだいメディアテーク」の伊東豊雄案と古谷誠章案(このコンペでは建築のプログラムの問題について踏み込んだ議論がなされた)や、人の登場を待ち受ける場面をもつ「京都駅」(この大階段では1年に400以上のイベントが行われていて、オーディションまであるそう)など、部屋ごとに機能とアクティビティが切り分けられるのではない方法を取っているものを拾い上げている。だから、異なるアクティビティが同時に現れない、境界のはっきりした空間は、この本のテーマから離れるので取り上げていない。

■ページの構成

この本は、すべてのページが見開きを単位としてつくられている。どこを開いても、その見開

きで情報は完結するようになっている。色刷りのタイトルが付く。タイトルと事例となる空間は、どちらが先というのではなく、セットで選択されている。見開きの写真か図版が下敷きになっていて、その上からキャプションや寸法、関係、材料などの情報が書き込まれているのがこの本の特徴だ。建築の雑誌や作品集では、こんなお節介なことはやらない。

見る目のある人が見ればわかることだという前提がそこにある。ところが、現地で実際に体験しても、そこに居つつけないとわからないような意図でつくられたり仕掛けられたり決定されたことがらも多いのだ。そこを取り出して表記している。キーとなる短い文章が加えられるが、説明的になりすぎないようにした。寸法はカラー表示である。情報の錯綜から読みにくくなることを避けるためだ。寸法は、できるだけその空間の質を決定づけているものを記した。「寸法」の本というわけではない。たとえば「大島町絵本館」のホールの天井の高さはかなり抑え込まれている。周囲を巡るデッキやブリッジ部分の階高はもちろん小さくなる。そのコンパクトさがこの空間のもつ親密さを生み出すのだが、広角のレンズでとらえられる建築写真だけでそのことを知るのには、それなりの観察力と注意深さが必要だ。

■この本の使い方

この本は、設計課題を進めるときに、どんどん考えを書き込んでいくノートのようにも使ってほしいと考えてつくったものである。もともと写真に寸法や文字が書き込んであるのだが、そこへさらにいろいろ書き込んでみてほしい。私自身、原稿作成や校正で、繰り返し写真を見ながらダイレクトにそこに書き込みをつづけてみて発見したのだが、実によくその写真にうつつていることを見ることができたのだ。1枚の写真に封入されている建築家の費やした時間が解凍される。だからこの本の紙質は、いろいろな筆記具を使えるという点からも選ばれている。

この本の構成など/3

●

論文：アクティビティと空間 小嶋一浩/6-11

●

主要項目のマトリックス/12-13

●

外部と内部を等価に考える/14-15

流動的な空間/16-17

フラットな雑木林のもつ透明性/18-19

■吉備高原小学校平面図/20-21

連続性/22-23

外の教室/24-25

活動の交差点/26-27

大きなにわ 小さな庭/28-29

■打瀬小学校平面図/30-31

同時多発する/32-33

門もフェンスもない/34-35

閉じない/36-37

天井で場所を示唆する/38-39

家具/40-41

建築が 家具が 行為を喚起する/42-43

家具の配置で空間をつくる/44-45

ワンフロアの平面/46-47

黒と白/48-49

白と家具/50-51

起点/52-53

人工的な地形/54-55

不均質なワンルーム/56-57

とりまくもの/58-59

平面であらわせるもの・あらわせないもの ■御杖小学校平面図/60-61

並行する場面/62-63

場所との応答/64-65

フィクション/66-67

ニュートラルスペース/68-69

流動的で均質な図式 ■白石第二小学校平面図/70-71

クロスプログラミング/72-73

エントランスロビーのレクチャーホールと動線/74-75

居る場所/76-77

静かな往来 ■八代市立保寿寮平面図/78-79

二つのプログラムの並置/80-81

映り込む動き/82-83

建築の中の空洞/84-85

マウンドをつくる/86-87

気配の広場 ■ビッグハート出雲断面図/88-89

境界の消失/90-91

浸透・積層/92-93

ミックス/94-95

共存する空間/96-97

内包された「行き交う」/98-99

断面で考える ■岩出山中学校断面図/100-107

ワンルーム/108-109

緩やかにループする経路/110-111

らせん²/112-113

集落のように学校をつくる/114-115

植物が場所をつくる ■城西小学校平面図/116-117

時間/118-119

中庭効果/120-121

多層構造の境界/122-123

柔らかな境界/124-125

平面図式と境界/126-127

体験を空間化する/128-129

シークエンス/130-131

仕掛けに満ちた空間/132-133

装置化する/134-135

自然のちから/136-137

人の集合が作り出す場面/138-139

ストリートのアクティビティ/140-141

都市を見下ろして佇む/142-143

●

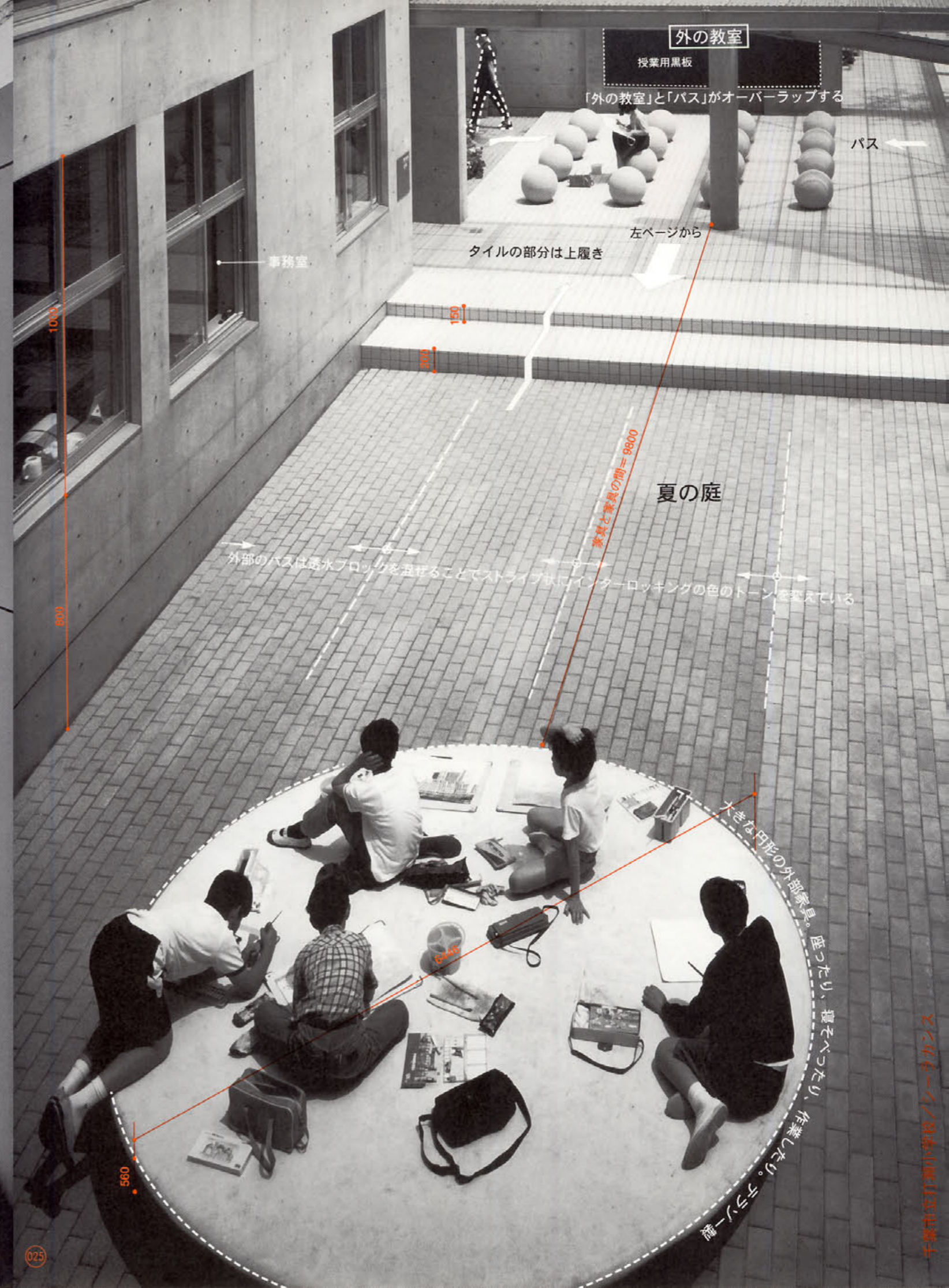
掲載建築作品データおよび主要掲載誌など/144-145

「外の教室」を設ければ、気候のよいときには教室でなくても授業はできるし、そのほうが気持ちよい。実際、生活科や理科の屋外実習の前などにこの教室もよく用いられている。また「バス」は住宅街と駅との抜け道になるよう配置してあるから、地域の人は抵抗感なく通り抜けていき、学齢期前の子供のいるお母さんたちの公園代わりの溜り場にもなっている。ここでは、授業と地域のアクティビティとが自然にオーバーラップする。



外の教室

地域住民も通り抜け可能なバス

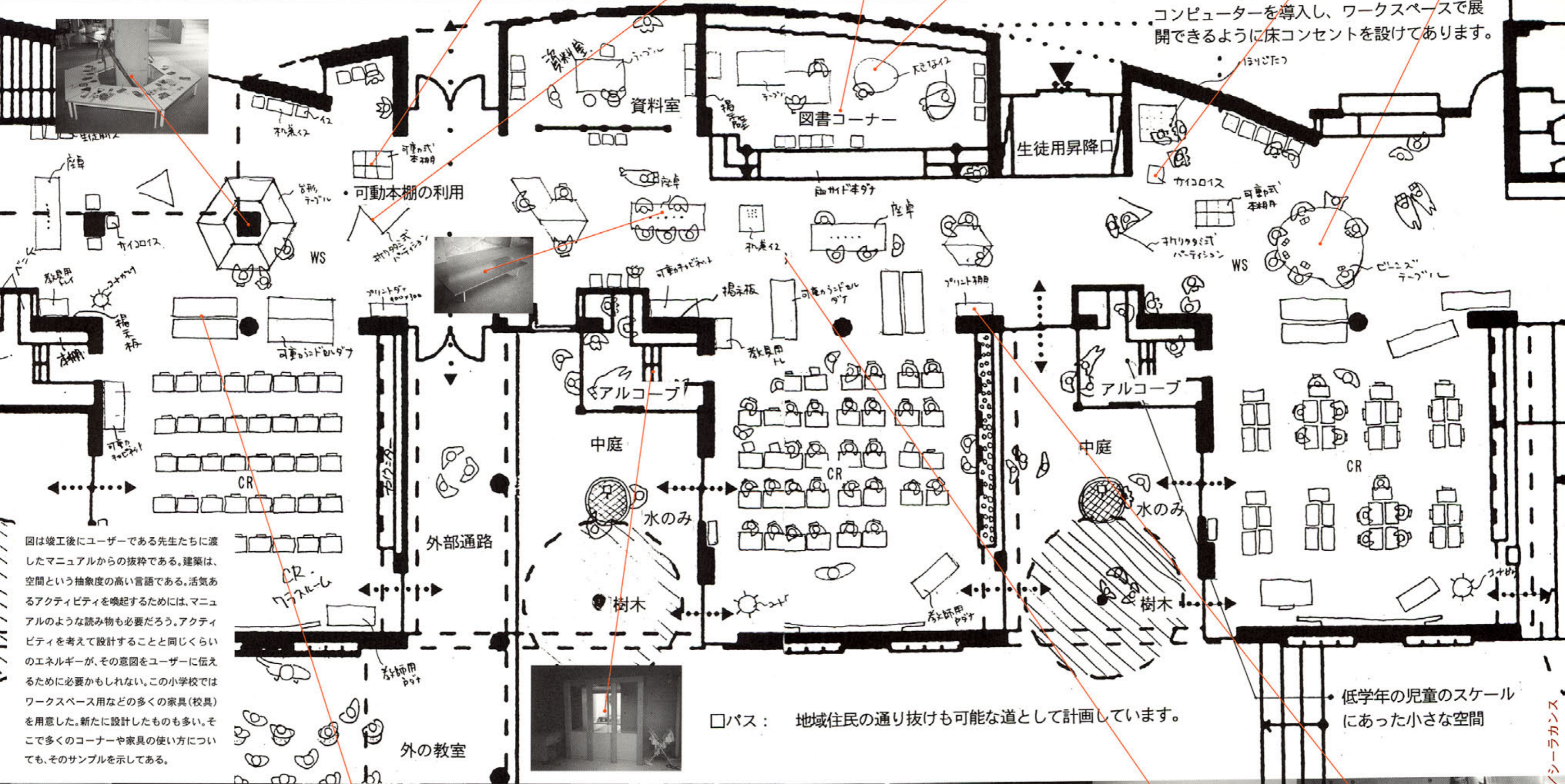
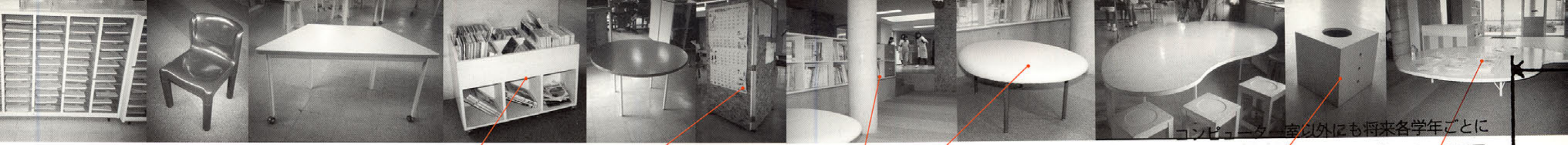




クラスルーム

ヒト

同時多発する



コンピュータ室以外にも将来各学年ごとにワークスペースを展開できるように床コンセントを設けてあります。

家具

